

1 どういう性格・パーソナリティか

型	性格の側面	弱	強	指数
思索型	内閉性：孤独な面があり内省するタイプ			38
	客観性：思慮深く冷静に判断するタイプ			55
活動型	身体性：活動的で機敏に動き回るタイプ			64
	気分性：気分で行動に変化があるタイプ			47
努力型	持続性：何事も粘り強くやり通すタイプ			66
	規則性：規則等を重視し行動するタイプ			36
積極型	競争性：競争心が強く積極的に動く傾向			50
	自尊心：自らのプライドを尊重する傾向			66
自制型	慎重性：慎重に見通しをつけて動く傾向			69
	弱気さ：考えすぎて遠慮がちになる傾向			51

■この人の中心性格は「自制・慎重性」および「努力・持続性」であるが、「積極・自尊心」や「活動・身体性」といった側面も本人は意識している。

●「自制・慎重性」及び「努力・持続性」の人のパーソナリティスケッチ
 他の人が何と言おうと、自分で確信が持てるまでは、決して行動には移さない慎重なところがあります。軽はずみな行動は少なく、落ち着いた雰囲気と信頼感があります。また、努力を信条としているようなところがあり、何事にも丹念でいねいです。出だしはそれほどでもないのですが、いつまでも継続させる持続力があります。生活ぶりもキチンとして、計画的な人です。とはいっても、あくまでもひとつのことに執着する頑固さはなく、融通性も持っています。それほど規則や秩序を気にするわけではなく、状況に応じた判断ができます。世間の常識はわきまえていても、四角四面になることはなく、良き社会人として模範的な見方をされていることでしょう。ただ、慎重すぎるがゆえ、問題が起こると必要以上に自分を責めがちです。同じ失敗を繰り返さないように考えすぎ、行動が控えめになることもあります。もっと図太いくらいのほうがリーダーとして活躍できますが、手堅さや慎重さなどは十分評価できます。

●もう一方の性格特性
 規則や秩序にとらわれず、自由奔放な発想をし、気の向くままに行動することができます。固定概念に縛られていませんから、柔軟な考え方ができます。マイペースで気ままな生活ぶりがかえります。自分らしいやり方を好みますが、社会的なルールや取り決めの必要性について、少し考えてみて下さい。

＜この帳票の見方＞

自己分析シートでは、性格、社会性、意欲の側面から診断しています。
 まず1ページ目では、あなたの中心性格を示し、次に日常的な生活場面での行動傾向を述べています。また、あなたの強み・弱みの把握ができるよう、具体的なアドバイスも記述されています。心理イメージに描かれている顔のイラストは、顔と人間の性格についてよく言われる言い回しをもとにあなたのモニターージュを作成しました。外見の顔ではなく、心の顔を絵で写し出そうとしたものです。
 2ページ目では、具体的な職場場面での対応力、自己評価と行動予測をグラフで示しています。対応力や行動予測は、1ページ目の診断結果より、あなたの行動傾向を予測したものです。
 あなたが思う本当の自分とのズレを感じる部分もあるかと思いますが、この診断結果によって、自分を見つめ直し、自己理解を深める機会ととらえて下さい。さらなる向上を目指すには、まず自分自身を知ることが大切です。自分を知り、さらなる向上を目指す手だてとして、ご活用下さい。

2 一般的な場面での社会性

社会性の側面	弱	強	指数
積極性・活発度			52
周囲との協調性			40
責任感・一貫性			66
自分への信頼度			47
指導・指示傾向			44
仲間との共感性			40
感情の安定度合			49
他者への従順性			26
自ら進んで実行			65
社会的自我確立			35

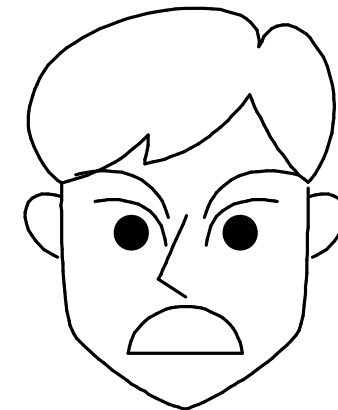
- 「他者への従順性」について
 他者への従順性とは、常識的行動や業務命令に対する素直さ、順応度を表します。集団中での行動や共同作業を行うときの、指示、命令系統のスムーズさや統制力などに影響する部分です。この傾向が低い場合は、
 ▼強く命令されたり、何か言われると内面的に反発したり、ヤル気をなくしたりすることも
 ▼自分の考えに固執することがあったり、必要なルールや規則などを気にしなかったりする
 といった行動などが考えられます。自分らしさを発揮したり主張することは大切ですが、集団の中では、周囲を見渡ししながら物事の流れや状況を正しく理解し、それに沿った柔軟な姿勢での判断力や対応も必要です。
- 「社会的自我確立」について
 社会的自我確立とは、今の自分のおかれた環境や現実に対する自己の内面的な満足度を表しています。本来思い描いている自分のあるべき姿と現状に差があるときなどにこの指数は下がります。この傾向が低い場合は
 ▼何らかの悩みを抱え、どうするべきなのか、結論が出せず、いろいろと決心がつかないでいる
 ▼自分らしい生き方の方向性を模索中だが、果たしてどれが正しいのかが見えないでいる
 といったことが考えられます。まずは、いま抱えている悩みや問題、周囲の状況をできるだけ正確に把握し、次に自分が求めている事は何で、今後どうしていきたいのかなどを合わせて分析してみることが先決です。

3 心理イメージ

■心理イメージをイラストであらわすと

- 慎重な性格 → 細面の顔
- 強い言い方に反発 → 眉が上がっている
- 引っ張るよりもついでいくほう → 細い眉
- ヤル気あふれている → 大きな瞳
- 新しいことをとりいれたい → 目尻が上がっている
- 目立ちたがり屋ではない → 普通の鼻
- 人に合わせるのが苦手 → 口元が下がっている

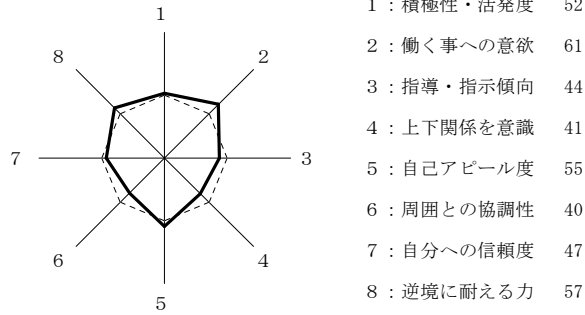
となり、右のような顔ができあがります。



4 仕事場面での対応力

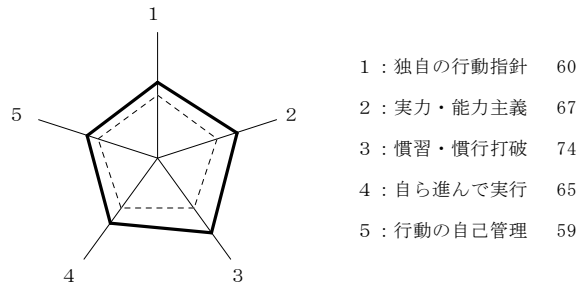
————— : あなたの得点
 - - - - - : 基準(50点)

■何事にも積極的な姿勢で取り組む傾向



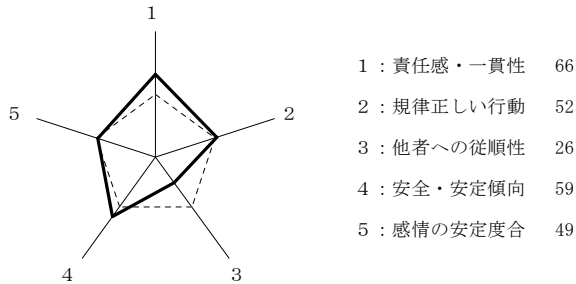
いつもギリギリまでがんばろうとするのですが、途中で何かに引っかかってくじけてしまうことがあります。本来持っている力を最後まで発揮できずにいるように思われます。トラブルが生じたときは受け持っている仕事や役割の意義を再確認し、やり方などを見直してみると、打開策がわかってくるでしょう。

■人に頼らず自分の力で成し遂げる傾向



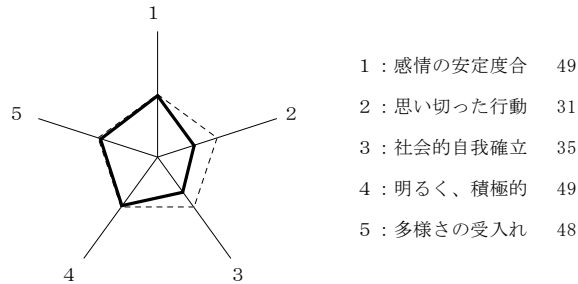
自分の目指すものがはっきりと定まっていて、努力して未来を築いていこうとする様子が感じられます。どちらかというと実力主義で、周囲に流されることを嫌うようです。自分らしい発想ややり方が大切なため、ときには周囲とのズレを感じることもあるかもしれませんが、組織の新しい力となることが期待できます。

■ねばり強く最後までやろうとする傾向



物事が順調なときはそのまますすんで進んでいても、何かあるとペースが崩れてしまい、せつかくの持続力が発揮できなくなってしまいます。感情や興味の変化のためかもしれませんが、すべきことを確実に認識し、役割分担など期待されていることを理解していれば、少々のことにくじけることはなくなります。

■強い意志を持ち前に進もうとする傾向

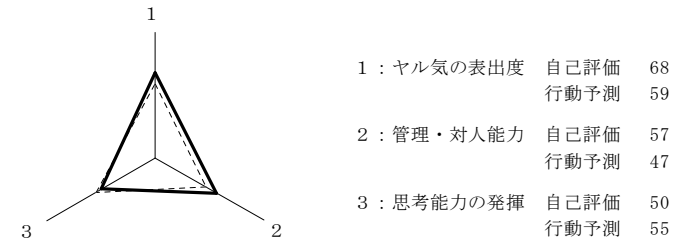


何かあると気持ちがしぼんだり、迷ったりするなどして、途中でくじけてしまうこともあるようです。たとえ時間がかかったとしても、自分なりの考えをまとめたものであれば、それほど簡単にあきらめなくなるはずです。応援してくれる仲間を見つけるなど、続けていくための環境づくりから始めてみるといいでしょう。

5 自己評価

■自己評価と行動予測の比較

————— : 自己評価
 - - - - - : 行動予測



■ヤル気の出出度について

積極的に仕事を進める能力があり、自分でも自信を持って取り組んでいる様子がうかがえます。どんなことでも、自分で自分をきちんと評価していなければ、本来の力は発揮できません。あなたの行動の結果は、周囲も評価していることと思われまます。目的を見失わず、ますます前進していくことを期待します。ただし、周囲とのバランスには注意したほうがよさそうです。自分の求められている役割や仕事内容について再確認し、一人の考えで突っ走ってしまうことのないように気をつけて下さい。

■管理・対人能力について

自分の指導力や交渉力などを過信することなく、任されたことをきちんとこなしていく様子がうかがえます。ただ、自分の限界を知っているさめた部分もあるようで、無理に人に合わせたり、周りをリードしたりするようなことはあまりしません。できる範囲のことは手を抜かないものの、物足りなさが感じられます。個人的な感情とは別に、仕事として割り切って打ち込むことも大切です。職務内容について理解を深めていくと、個人的な好き嫌いは前面に出てこなくなるでしょう。

■思考能力の発揮について

自分自身を客観的に見ている一面があり、必要以上に過信することはないのですが、反面、自分の限界を勝手にここだと決めてしまい、それ以上の力を出せなくしています。単にわかっているだけではなく、日頃から関係する分野に関する情報収集に努めるといいでしょう。専門知識や技術力などは、一朝一夕で身につくものではありません。小さいことの積み重ねが自信につながります。適当なところであきらめてしまうことなく、ひとつのことを突き詰めて考えてみると、そこから新しい突破口が見いだせます。